

12月27日 聖家族の祝日

父の家で

ルカによる福音書 2 章 41 ~ 52 節

⁴¹ さて、両親は過越祭^{すごこしさい}には毎年エルサレムへ旅をした。⁴² イエスが十二歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都に上った。⁴³ 祭りの期間が終わって帰路についたとき、少年イエスはエルサレムに残っておられたが、両親はそれに気づかなかった。⁴⁴ イエスが道連れの中にいるものと思い、一日分の道のりを行ってしまい、それから、親類や知人の間を捜し回ったが、⁴⁵ 見つからなかったので、捜しながらエルサレムに引き返した。⁴⁶ 三日の後、イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。⁴⁷ 聞いている人は皆、イエスの賢い受け答えに驚いていた。⁴⁸ 両親はイエスを見て驚き、母が言った。「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです。」⁴⁹ すると、イエスは言われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」⁵⁰ しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった。⁵¹ それから、イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮らしになった。母はこれらのことをすべて心に納めていた。⁵² イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。

他の朗読：サムエル上 1：20 ~ 22, 24 ~ 28 詩編 84：2, 3, 5, 6, 9, 10 Iヨハネ 3：1, 2, 21 ~ 24

Lectio…読む

イエスの奇跡的な誕生の出来事の後、彼の幼少期についての詳細は極めてわずかしか残されていません。ただルカのこの部分ともう一箇所、マタイ 2 章（次の日曜日の朗読箇所）に記録されている部分だけが私たちに伝えられています。

敬虔なユダヤ教徒として、マリアとヨセフは親戚や友人らと共に、年一度エルサレム巡礼を行います。それは彼らの先祖をエジプトから救い出し解放してくれた神に栄光を帰す、一週間続く過越祭を祝うためです（出エジプト 12 章 1 ~ 27 節）。

彼らは幾度となく巡礼の旅を行っていました。しかしながら、この年の旅は特に記憶されるべきものであったことは間違いありません。おそらく初めての巡礼であったはずの 12 歳のイエスは、みんなと戻らずに、神殿に残っていたのです。

ヨセフとマリアはイエスが道連れの中にいないことに気づいた時、エルサレムへ引き返しました。不安な思いで 3 日間探し回った後、彼らはずいに神殿で学者たちと話しているイエスを見つけるのです！

イエスはその 4 日間、完全に夢中で神殿で過ごしていたようです。彼は学者たちに宗教的な話を聞いたり質問したりして、自分のいるべき場所にいたのです。さらに聴衆を仰天させたのは、その年齢と学習をはるかに超える、イエスの知恵と理解でした。この男の子には明らかに何か特別なものがありました。それはイエスの本性をかすかに知らせる預言的しるしでした。

イエスが祭の後に一緒に家に帰らず、これだけ心配をさせていたことについてのマリアとヨセフの狼狽は無理もないことです。イエスの返事は、自分がどこで見つかるか、マリアとヨセフは同然知っているべきだったと指摘します。つまりそれは神殿—「自分の父の家」においてです。

マリアとヨセフはイエスの言動をはっきり理解できませんでしたが、マリアは「これらのことをすべて心に納めて」いました。この出来事の後、イエスが彼らと共にナザレに帰り、彼らに従順であったとルカは伝えています。彼は成長し、知恵が増し、神と人ともに愛されました。

Meditatio…黙想する

この箇所は12歳のイエス自身の考えについて、そして彼の天の父について、何を私達に明らかにしてくれていますか。

この箇所でのイエスの優先事項は何であると教えているのでしょうか。これは彼の将来の使命にどう影響してくるのでしょうか。

イエスは、神の現存をどこにおいても体験することができたはずですが、彼はなぜ、この時神殿に行くことを選んだのだと思いますか。

Oratio…祈る

詩編84編2～10節の言葉を祈ってみましょう。父の家にいるイエスの喜びを何かとらえることができるかもしれません。

今日の箇所は、私たちの天の御父、そして私たち人間としての家族という、ふたつの家族の関係に焦点をあてています。あなたも彼の子供であることを、神に感謝しましょう。あなたの教会の人々、あなた自身の家族の一人ひとりのために祈る時間を持ちましょう。

Contemplatio…観想する

Iヨハネ3章1、2、21～24節は、驚くべきいくつかの真実を含んでいます。あなたを自身の子供と呼んでいる愛情溢れる神の不思議に、満たされましょう。

神に従うなら、私たちは神と一致して生きることができる、という神の約束を考えてみましょう。